

《 第49回高高神田会のご案内 》

— 瀬祭の候に魚を並べて白みそ餡餅雑煮も並べてを食おう会 —

皆様、あけましておめでとうございます。

今年 2016 年(丙申ひのえさる)は正月からいろいろとんでもないことが起こりました。

株は暴落するわ、サウジとイランが断交敵対するわ、ISIL はいろいろ不穏なことをするわ、北朝鮮が水爆実験？をするわ。なにかよからぬ年となる予感がしますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

今年は何年ですし、何年といえば夏季オリンピックの年ですし、よからぬ予感がしようが恒例の白みそ餡餅雑煮の会は決行致しますので肅々のご案内申し上げます。

恒例の餡餅白みそ雑煮会ですが、回を重ねて 15 回目になります。

本会の趣旨は、旧暦の正月にわが郷土の誇る「白みそ餡餅雑煮」を食って、故郷に思いを馳せながら讃岐の食文化を東京に見せびらかそうということにあります。どうして旧暦なのかということは去年のご案内にてご説明いたしました(簡単に言うと新暦正月は用事が多かろう、さすがの暇人も多少は忙しかろう、すでにいやというほど餅を食ってるのでさすがにきつかり)が、もう一つ訳があるのです。そのうちにどこかで説明いたしますので今少しお待ちを。

さて、今年の旧暦元日は 2 月 8 日、今年は何年の通り 2 月 20 日の開催と成った訳ですが、2 月 20 日は旧暦では 2 月 13 日となります。

去年に引き続き遅い正月となりました。過去の本会史の中で第 3 回目(2004 年)と第 14 回目(去年)に次いで遅い日 No.3 ということです。

そうはいつても、2 月 20 日は旧暦では 1 月 13 日、1 月 15 日が小正月ですからまだまだ正月といえば正月ですね。

実は去年のご案内に今年の開催日の予告をしておりました。(下記の通り)

.....
① 2月11日(祝・木 = 旧暦では1月4日)、
もしくは

② 2月13日(土 = 旧暦では1月6日)あたりが候補日です。

気の早い話ですが皆さんそのあたりを予定しておいてくださいませ。

.....
完全に裏切りましたね。すみません、本会事務方の連中の勝手な都合です。深くお詫び申し上げる次第です。やはり来年のことは鬼が笑ってしまいますね。

さっそく、下記のとおりご案内をいたします。

開催日時 : 平成28年2月20日(土) 旧暦1月13日

12:30から 16:00終了

※ 「かおりひめ」さんにはランチタイムをパスしてもらいますので12:30スタート

※ そのかわりディナータイムまでパスして頂くわけにも参りませんので終了は16:00厳守

場所 : せとうち旬彩館「かおりひめ」

港区新橋2-19-10 マリンビル2階 (JR 新橋銀座口すぐ)

Tel 03-5537-2684

会費 : 一応6,000円の予定

今年も会場は昨年、一昨年に引き続いてS53卒香川県職員の溝渕さんにお願ひしました。もはや県の東京事務所にとっても恒例行事として定着しつつあるかのごとく、快く「かおりひめ」さんにお引き受けいただきました。

また、餡餅、大根、金時人参など貴重な讃岐雑煮の食材は、またまたH3卒佐治珠実さんの三木町のご実家にご提供いただきました。過去 14 回にわたってお世話になり続け、今年もまた引き続き厚顔にもお願ひしようかというこの会はいったい何なのでしょう。我ながらちょっと恥ずかしい気が致しますが、やっぱりお願ひしてしまいました。

まあ、佐治さんは去年の総会幹事でしたので、動員 1200 人達成記念にかこつけて今年は特別にお願ひしてもまあ許されるのかなということ……。

これより下は数寄者・風流人の方のみお読みください。

2月20日は二十四節気でいうと「雨水」の頃です。

「雨水」:陽気地上に発し、雪氷とけて雨水となる
つまり「寒さのピークを越えた!」という頃です。

二十四節気は一年を24分しますので一節気は半月、「雨水」の前が「立春」ですので、「雨水」は正月後半の節気となります。「雨水」の次は「啓蟄」で、「啓蟄」:大地が温まり冬眠をしていた虫が穴から出てくるころ」は二月の前半部分になります。

二十四節気をさらに3分割し1年を七十二の時期に分けた(つまり約五日分)期間が七十二候。

2月20日ごろ(雨水初候)は日本では「土脉潤起(つちのしょううるおいおこる=雨が降って土が湿り気を含むころ)」と呼ばれ、そろそろ今年の田んぼの準備をしようかという頃となります。

ちなみに立春(正月前半=春の始まり)からの七十二候を春分(春たけなわ)までwikiを参考に順番に並べてみます。

- | | | |
|----------|----|-----------------------------------|
| 立春(正月前半) | 初候 | 東風解凍(こちこおりをとく=文字通り東風が氷を溶かし始める) |
| | 次候 | 黄鶯睨睨(うぐいすなく=このままですが鶯が啼きはじめる) |
| | 末候 | 魚上氷(うおこおりをいずる=氷が割れ魚が飛び出てくる) |
| 雨水(正月後半) | 初候 | 土脉潤起(つちのしょううるおいおこる=雨が降って土が湿り気を含む) |
| | 次候 | 霞始靄(かすみはじめてたなびく=霞がたなびき始める) |
| | 末候 | 草木萌動(そうもくめばえいずる=草木が芽吹き始める) |
| 啓蟄(二月前半) | 初候 | 蟄虫啓戸(すごもりむしとをひらく=虫が土から出てくる) |
| | 次候 | 桃始笑(ももはじめてさく=文字通り桃が咲き始める) |
| | 末候 | 菜虫化蝶(なむしちょうとなる=青虫が羽化し蝶になる) |
| 春分(二月後半) | 初候 | 雀始巢(すずめはじめてすくう=雀が巢作りを始める) |
| | 次候 | 桜始開(さくらはじめてひらく=文字通り桜が咲き始める) |

末候 雷乃発声(かみなりすなわちこえをはっす＝雷が鳴る)

自然に対するまなざしの暖かさと、またそれが農作業にリンクしそうな季節感となっていますね。

五日ごとに徐々に変化していく自然を見、花鳥風月を愛で、農耕を生業としていた日本人の姿ここにありという感じです。

和歌や俳句はこのようなところから生まれ出てきたのでしょう。

さらに「燕が来て」「雁が北行して」「虹が出て」「葦が生えて」「稲の苗を作って」「牡丹が咲いて」そのあと「蛙が鳴きはじめる」夏となります。

この七十二候、実は古代中国にあったものを日本の風土気候に合うように改定を重ね今の七十二候になったのは江戸時代だそうです。

そういうことで、本家中国の七十二候は日本のものと同じ言い方もあれば全く違う言い方もあります。

例えば「蟄虫啓戸(虫が出てくる)」はわが国では二月初めにあたりますが、唐の時代の暦では「蟄虫始振(虫が動き始める)となり一月の初めごろとなっています。虫が這い出ると虫が動き始めるのが1か月くらいの差があるということなのか、または違う虫のことを言っているのかはわかりません。もしくは日本の本州あたりの気候と中国の中原とは季節感が多少違うということなのかもしれません。

国会当日の2月20日ごろ、日本では「土脉潤起(つちのしょううるおいおこる＝雨が降って土が湿り気を含む)」ですが、古代中国の唐の時代においては「獺祭魚(だっさいぎょ)」即ち「獺(かわうそ)が取った魚を並べはじめる」となっています。

カワウソはとった魚を食べる前に並べる習性があるといわれ、それを祭儀になぞらえて「カワウソの祭り＝獺祭」。

山口県岩国の最近評判の銘酒「獺祭」はこれを銘柄にしたもの。

また、正岡子規が本を乱雑に並べた根岸の自宅を称して「獺祭屋」、自らを「獺祭屋主人」と称していたことは有名ですね。ちなみに当たり前ですが「獺祭」という単語は春の季語となっています。

そういうことで獺祭の頃に「獺祭」ならぬ「金陵か川鶴」を呑みながら、白みそ餡餅雑煮をと魚謎をテーブルに並べて頂戴いたしましょう。

皆さま ご家族(家族候補者を含む)・友人(餡ころ餅雑煮未体験者歓迎)などをお誘い合せの上、賑やかに讃岐弁の飛び交う新年会に ぜひご参加戴き 新年を一緒に言祝ぎましょう。

それではいつものとおり、次頁の返信用紙にてお申し込みください。

……………高高神田会館ころ餅雑煮新年会 出欠の返信用紙……………

fax 送信 03-5296-7678 岡崎宛

開催日時 : 平成28年2月20日(土)
 12:30から 16:00終了
場所 : せとうち旬彩館「かおりひめ」

館ころ餅雑煮新年会に
参加 欠席 (いずれかを選択してください)
します。

参加人数:
(ご同伴者がいらっしゃいましたら参加人数をご記入お願いします)

卒業年度:
ご芳名:

連絡事項: